

株主のみなさまへ

2024年度報告書 —2025年6月発行—



‘TORAY’
Innovation by Chemistry

株式関連情報

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱所 【郵便物送付先】 【電話照会先】	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎0120-782-031（平日9：00～17：00）
単元株式数	100株
公告方法	電子公告（当社ウェブサイトに掲載） www.toray.co.jp
証券コード	3402
住所変更、配当金 受取方法の指定・ 変更、単元未満株式 の買取・買増等の お申し出先について	株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。 証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社本支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く）にお申し出ください。
未払配当金の 支払いについて	三井住友信託銀行株式会社本支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く）にお申し出ください。
株主総会資料 書面交付請求の お手続きについて	三井住友信託銀行株式会社☎0120-533-600（平日9：00～17：00）または口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。

株式データ（2025年3月31日現在）		
◎発行済株式総数 1,631,481,403株（自己株式66,947,199株を含む）		
◎株主数 193,583名		
◎大株主及び持株数		
株主名	持株数	持株比率％
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	246,679,700株	15.77％
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	125,375,300	8.01
日本生命保険相互会社	71,212,250	4.55
大樹生命保険株式会社	35,961,000	2.30
ステートストリートバンクウェストクライアントドリーターニー 505234	30,019,014	1.92
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	27,672,962	1.77
全国共済農業協同組合連合会	26,593,000	1.70
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505301	26,525,362	1.70
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505025	26,088,251	1.67
株式会社三井住友銀行	24,022,000	1.54
※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。		
◎所有者別分布状況		
金融機関 638,515千株 39.14%	証券会社 26,410千株 1.62%	個人・その他 260,342千株 15.96%
その他国内法人 94,261千株 5.78%	外国人 545,006千株 33.41%	自己株式 66,947千株 4.10%
ウェブサイト www.toray.co.jp		
株主・投資家情報 (IR) www.toray.co.jp/ir/index.html		

《銀行口座等への配当金の振込手続きのご案内》	
当社株式の配当金のお支払い期間は当社定款の規定により、支払開始日から3年となっております。支払開始日から満3年を経過した配当金はお受け取りができなくなりますので、お受け取り漏れのない口座振込のご活用をご検討ください。 振込指定をご希望される場合は、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。	
銀行口座等でお受け取り	証券口座でお受け取り
ご指定の金融機関口座でお受け取りいただく方法 （個別銘柄ごとのご指定も可能です）	各証券会社の証券口座でお受け取りいただく方法

東レ株式会社

本 社
〒103-8666 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号（日本橋三井タワー）
Tel：03-3245-5111（代）
大阪本社
〒530-8222 大阪市北区中之島三丁目3番3号（中之島三井ビルディング）



この報告書は、FSC（森林管理協議会）の規程に従って環境に配慮し、適切に管理された森林から切り出された木を原料とした紙を使用しています。また印刷インクはVOC（揮発性有機化合物）成分が少ない植物油インキを使用し、アルカリ性現像液やインプロビアルコールを含む溶し水が不要な東レ水なし平版で印刷しています。



2024年度下期の主なトピックス

下 wastewater 再生水からの超純水製造を可能とする逆浸透（RO）膜の販売を開始 —尿素など不純物の除去性を2倍に向上、超純水の安定供給に貢献—

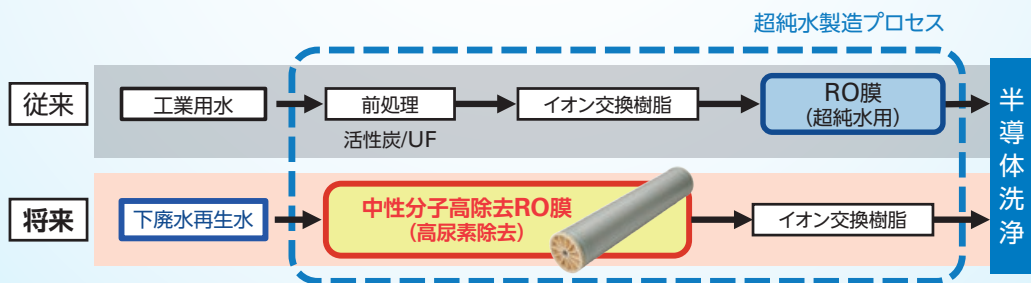
半導体分野等での超純水製造に向けて、下 wastewater 再生水を原水とした場合に求められる尿素的除去性を2倍に高めた中性分子高除去・低圧逆浸透（RO）膜エレメント「TBW-XHRシリーズ」を開発し、2024年11月から国内水処理エンジニアリング会社向けに先行販売を開始しました。

世界各地で水不足が深刻化する中、半導体メーカー各社は、大量の超純水を使用する半導体製造工程において、工場内 wastewater 水の再利用率を高める取り組みに加え、半導体製造に用いる超純水の水源として、現状の水道水に代わる下 wastewater 再生水の活用や海水の利用拡大を検討しています。

これら多様な原水から超純水を製造するには、水中に含まれる塩分だけではなく、シリカやホウ素、尿素、アルコールなどを除去する技術が必要です。特に尿素は、飲料用途で問題となるだけではなく、超純水中に含まれる場合、半導体製造の露光工程でトラブルを起こすため、尿素有効率で除去することが重要な課題でした。

従来の下 wastewater 再生水は、水道水

に対して尿素有効率が3倍の1リットル当たり約30マイクログラムと高く、超純水製造プロセスでは、尿素有効率で除去することが求められま



す。しかし尿素有効率はサイズが小さく、電気的に中性の分子であるため、海水に含まれるホウ素と同様に除去の難度が高く、高い造水量を維持しながら尿素有効率やホウ素の除去率を向上させることがRO膜開発の課題でした。

東レは、RO膜の製造プロセスの革新により、水を選択的に透過させ、尿素有効率やホウ素をはじめ、アルコールなどの除去性を高める、新たな膜構造の制御技術を開発し、除去が難しかった尿素有効率の除去性を従来比2倍に向上し、低い圧力での優れた透水性と両立させた、RO膜エレメント「TBW-XHRシリーズ」を創出しました。

本製品の開発においては、（株）東レリサーチセンターが保有する、高度分析技術を活用しています。社内評価にて90％に近い尿素有効率を示しており、下 wastewater 再生水からの超純水製造において尿素有効率を従来比半減するなど、最先端の半導体製造工場で求められる高水質超純水の安定供給に貢献します。

現行超純水製造システムでの水質向上のニーズに応え、さらに下 wastewater 再生水

利用などの新システム構築を担う製品として、半導体・電子部品製造工場や超純水製造装置を取り扱う水処理エンジニアリングへの展開を進めていきます。

シルック®発売60周年記念新素材「シルック美来™/SillookMirai™」を開発 —植物由来PETと複合紡糸技術NANODESIGN®を融合—

シルック®発売60周年を記念して、植物由来PETと複合紡糸技術NANODESIGN®を融合した新素材「シルック美来™/SillookMirai™（シルックミライ）」を開発しました。

2025年春夏シーズン向けから、和装及び洋装用途として、メンズ・レディース向けのアウトターからボトムスまで展開します。

1960年代は合成繊維の黎明期で、レーヨンとナイロンに次ぐポリエステルが大量消費時代の幕開けの一端を担っていた時代です。東レは「絹」に学び、特徴を捉えて活かすことを開発の原点とし、絹が持つ光沢、ドレープ、ふくらみ感、さらには「絹鳴り」といった独特の音色までも追求することで、1964年に初代「シルック®」を創出しました。以来、シルック®シリーズは日本の伝統的な絹織物文化と現代技術を融合させた革新的なテキスタイルとして長年にわたり高い評価を得てきました。

資源枯渇や地球温暖化などの地球環境問題に注目が集まる中で、東レはバイオ

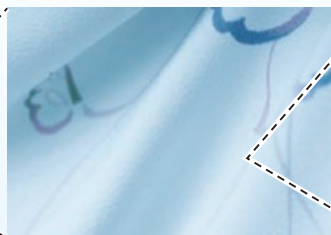
エコノミーが目指す未来に向け

て、これまでシルック®が培ってきた技術をベースとし、PET原料の一部を石油由来から植物由来に置き換える技術と、東レ独自のNANODESIGN®技術との融合により、これまでのシルック®を超える高質感や快適機能性を実現

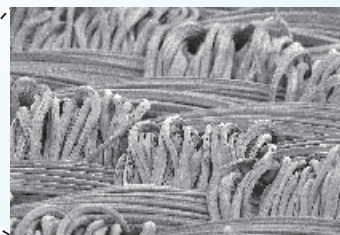
シルック美来™ SillookMirai™



縫製品外観



テキスタイル外観



テキスタイル表面

した新素材「シルック美来™」を開発しました。

「シルック美来™」は、従来の石油由来原料に代わり、植物由来原料を約30％使用した環境配慮型新素材です。繊維断面を精密に制御するNANODESIGN®技術の深化によって実現した、表面凹凸の異なる異形断面繊維が混在する糸束構造により、シルック®が追求し続けてきたシルクタッチや自然な光沢といった高質感に加え、着物の裾がすれ合う際の「絹鳴り」といった、目に見えない美しさも表現します。

また、テキスタイル表面に形成された凹凸斑は、これまでのシルック®では達成が困難であった和装における着用時の着崩れ防止や、優れた耐洗濯性、さらにはイージーケア性をも実現することで、エレガントで滑らかな質感に、繊維の断面形状を精密に制御することで生まれる快適機能性を付与しています。

「シルック美来™」は、絹の美しさと、絹にはない優れた機能を追い求めてきたシルック®の60年間にわたる技術革新の集大成です。機能性を有する環境配慮型素

材であるとともに、本素材の特

長を発揮する豊富な素材ラインナップも取り揃えることで、「みらいの日常を美しく」をコンセプトとし、伝統の和装から最先端のファッションまで、幅広い用途で人々の豊かな生活と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

Our Stories

東レ公式note



東レアローズ



サニブラウン・アブデル・ハキーム



「魔改造の夜」への挑戦



You Cannot Be Serious

気候危機に立ち向かう！ジョン・マッケンローと東レからの宣言



会社施設紹介



世界をつくる「素材」の最先端



半導体事業



青空サイエンス教室



東レ株式会社 2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）の業績についてご報告申し上げます。



株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当期の世界経済は、米国は堅調に推移し、欧州は一部に足跡がみられますが、持ち直しが続きました。中国は景気刺激策の効果もみられますが、回復は足踏み状態となりました。国内経済については、緩やかな回復が続きました。

このような事業環境の中で、当社グループは「持続的かつ健全な成長」を目指し、2023年度からは「持続的な成長の実現」「価値創出力強化」「競争力強化」「『人を基本とする経営』の深化」「リスクマネジメントとグループガバナンスの強化」の5つを基本戦略とした中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”（以下、AP-G 2025）を推進しています。

2024年度の当社グループの連結業績は、売上収益は前期比4.0％増の2兆5,633億円、事業利益*は同39.1％増の1,428億円となりました。営業利益は同121.1％増の1,275億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は同255.8％増の779億円となりました。

この業績を踏まえ、期末配当金につきましては、1株当たり9円とさせていただきます。これにより、中間配当金9円を加えた2024年度の年間配当金は、1株当たり18円となりました。なお、2025年度は3年連続となる増益を計画しており、AP-G 2025で収益基盤の強化が進んでいることを踏まえ、2025年度の年間配当金は前期比2円増配し、1株当たり20円を予定しています。

また、資本効率の改善を加速するため、政策保有株式の縮減を進めています。2024年度は1,098億円の政策保有株式を売却し、資本合計に対する比率は5.4％となりました。売却代金は全額自己株式の取得に充てる方針で、2024年11月に1,000億円の自己株式取得を決議しました。2025年5月末時点で648億円、67百万株を取得しています。

世界経済は、トランプ政権下における米国の相互関税発動もあつて不透明感が強い状況が継続するとみています。当社はグローバルに拠点を有することから各国が保

護主義へ傾倒する状況に対して高い耐性を持っていますが、各政策やサプライチェーンの変化に細心の注意を払い、不確実性に備えた事業運営を行ってまいります。

また、次の中長期計画について社内で活発な議論を開始しました。2026年度以降も持続的な成長を果たしながら、企業理念「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」を具現化する「真のサステナブルな会社」を目指し、たゆまぬ努力を続ける所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2025年6月

東レ株式会社 代表取締役社長

大矢 光雄
おおや みつお

*事業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出しております。

事業の概況

2024年度の売上収益は2兆5,633億円、事業利益は1,428億円となりました。

各セグメントの（ ）内の数字は前期比です。

繊維

売上収益 10,111億円 (3.7％)
事業利益 642億円 (17.3％)

衣料用途は欧州市場の低迷や海外品との競争激化の影響は継続していますが、総じて堅調に推移しました。
産業用途は自動車用途が国内自動車メーカーの不正問題の影響や欧州の市況低迷などから本格回復に至らず、また中国EV市場での競争激化の影響を受けました。

機能化成品

売上収益 9,449億円 (6.6％)
事業利益 600億円 (63.6％)

樹脂・ケミカル事業は、樹脂事業が国内自動車メーカーの減産の影響を受けたものの、中国及びASEAN向け非自動車用途の需要が回復しました。
フィルム事業は電子部品関連において、サプライチェーンの在庫調整の反動から需要が伸長しました。
電子情報材料事業は、有機EL関連材料・回路材料の需要に回復がみられました。

炭素繊維複合材料

売上収益 3,000億円 (3.3％)
事業利益 225億円 (70.7％)

航空宇宙用途は順調に回復しました。一般産業用途については、風力発電翼用途は緩やかな回復が続きましたが、その他用途は調整局面となりました。

環境・エンジニアリング

売上収益 2,365億円 (△3.1％)
事業利益 259億円 (11.6％)

水処理事業は中国の市況低迷の影響を受けましたが、需要は堅調に拡大しており、中東向けの大型案件の出荷等により増収増益となりました。
エンジニアリング事業は国内エンジニアリング子会社で案件の時期ずれにより減収となったものの、概ね堅調に推移しました。

ライフサイエンス

売上収益 532億円 (1.8％)
事業利益 △8億円 (→)

医薬事業は、後発医薬品浸透と薬価改定の影響を受けたほか、海外で販売量が伸び悩みました。
医療機器事業は、血液透析ろ過用ダイヤライザーの出荷が国内外で堅調に推移しましたが、原材料価格高騰の影響を受けました。

上記のセグメント以外に、その他の売上収益177億円、事業利益24億円、事業利益の調整額△315億円があります。

会社概要 (2025年3月31日現在)

設立 1926年(大正15年)1月

資本金 147,873,030,771円

従業員数 47,914名

東レグループの主要な事業内容

下記製品の製造・加工及び販売

繊維

ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び織編物、不織布、人工皮革、アパレル製品等

機能化成品

ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品、ポリオレフィンフォーム、ポリエステル・ポリエチレン・ポリプロピレン等のフィルム及びフィルム加工品、合成繊維・プラスチック原料、ファインケミカル、電子情報材料、印写材料等

炭素繊維複合材料

炭素繊維・同複合材料及び同成形品等

環境・エンジニアリング

水処理用機能膜及び同機器、総合エンジニアリング、マンション、産業機械類、住宅・建築・土木材料等

ライフサイエンス

医薬品、医療機器等

その他

分析・調査・研究等のサービス関連事業等

取締役・監査役一覧 (2025年6月26日現在)

代表取締役会長 日 覺 昭 廣

代表取締役社長 大 矢 光 雄

代 表 取 締 役 首 藤 和 彦

取 締 役 恒 川 哲 也

取 締 役 寺 田 滋 紀

取 締 役 加 藤 勇 一 郎

社 外 取 締 役 伊 藤 邦 雄

社 外 取 締 役 神 永 晋

社 外 取 締 役 原 山 優 子

社 外 取 締 役 イネステラー 章 子

監 査 役 平 林 秀 樹

監 査 役 真 野 充 治

社 外 監 査 役 高 部 眞 規 子

社 外 監 査 役 荻 野 浩 三

社 外 監 査 役 井 上 雅 彦

本報告書中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいており、当社の将来の業績を保証するものではありません。

要約連結財務諸表 (IFRS)

連結財政状態計算書

科 目	単位：百万円 (百万円未満四捨五入)	
	前連結会計年度 (2024.3.31)	当連結会計年度 (2025.3.31)
■資産		
流動資産	1,522,640	1,461,988
現金及び現金同等物	235,887	237,295
営業債権及びその他の債権	659,600	605,967
棚卸資産	531,959	520,505
その他	95,194	98,221
非流動資産	1,943,878	1,830,609
有形固定資産	1,081,115	1,109,588
使用权資産	50,486	53,914
のれん	95,996	94,643
無形資産	95,269	99,299
持分法で会計処理されている投資	228,989	216,714
その他の金融資産	278,254	154,653
その他	113,769	101,798
資産合計	3,466,518	3,292,597

単位：百万円 (百万円未満四捨五入)

科 目	前連結会計年度 (2024.3.31)	当連結会計年度 (2025.3.31)
■負債及び資本		
流動負債	865,734	857,530
営業債務及びその他の債務	340,256	315,896
社債及び借入金	379,847	367,089
その他	145,631	174,545
非流動負債	754,422	614,495
社債及び借入金	530,557	432,468
その他	223,865	182,027
負債合計	1,620,156	1,472,025
親会社の所有者に帰属する持分	1,736,034	1,708,984
資本金	147,873	147,873
資本剰余金	120,944	120,562
利益剰余金	1,068,364	1,170,508
自己株式	△19,220	△57,240
その他の資本の構成要素	418,073	327,281
非支配持分	110,328	111,588
資本合計	1,846,362	1,820,572
負債及び資本合計	3,466,518	3,292,597

連結損益計算書

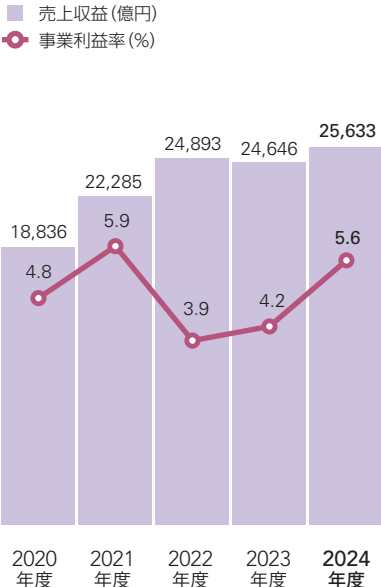
科 目	前連結会計年度 (2023.4.1～2024.3.31)	当連結会計年度 (2024.4.1～2025.3.31)
売上収益	2,464,596	2,563,280
売上原価	△2,021,073	△2,057,385
売上総利益	443,523	505,895
販売費及び一般管理費	△346,344	△366,106
その他の収益	8,985	11,507
その他の費用	△48,513	△23,843
営業利益	57,651	127,453
金融収益	12,149	11,092
金融費用	△19,083	△21,906
持分法による投資利益(△損失)	8,850	△2,351
税引前当期利益	59,567	114,288
法人所得税費用	△29,112	△27,615
当期利益	30,455	86,673
当期利益の帰属		
親会社の所有者	21,897	77,911
非支配持分	8,558	8,762
当期利益	30,455	86,673
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益(円)	13.67	48.93
希薄化後1株当たり当期利益(円)	13.65	48.84

連結キャッシュ・フロー計算書

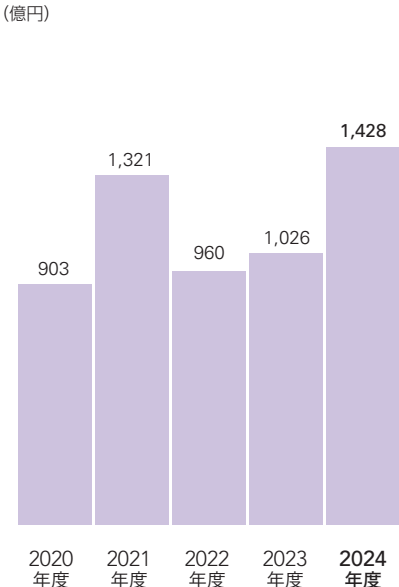
科 目	前連結会計年度 (2023.4.1～2024.3.31)	当連結会計年度 (2024.4.1～2025.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	185,680	255,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	△120,997	△63,198
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,370	△188,520
現金及び現金同等物の為替変動による影響	17,579	△1,907
現金及び現金同等物の増減額	11,892	1,408
現金及び現金同等物の期首残高	223,995	235,887
現金及び現金同等物の期末残高	235,887	237,295

財務ハイライト

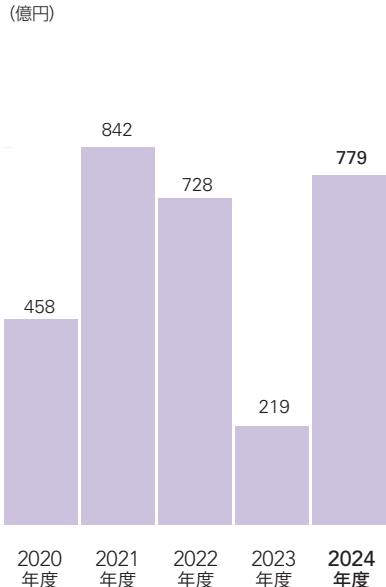
売上収益・事業利益率



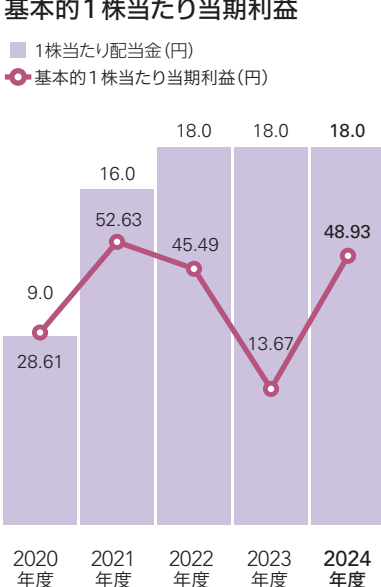
事業利益



親会社の所有者に帰属する当期利益



1株当たり配当金・基本的1株当たり当期利益



資産合計・親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率

